事例No.	597
公表年度	H28
団体の属性	一般市
団体名	茨城県鹿嶋市

事例区分	公共施設管理

タグ	・公共施設等総合管理計画 ・公共施設活用 ・教育・子育て

事例種類	公共施設等総合管理計画に基づく公共施設マネジメント

事例内容・タイトル

屋内温水プール整備事業（集約化・公共施設最適化事業債・公共施設等適正管理推進事業債）

出典

公共施設最適化事業債を活用した先進事例

茨城県鹿嶋市（人口6.7万人）

屋内温水プール整備事業

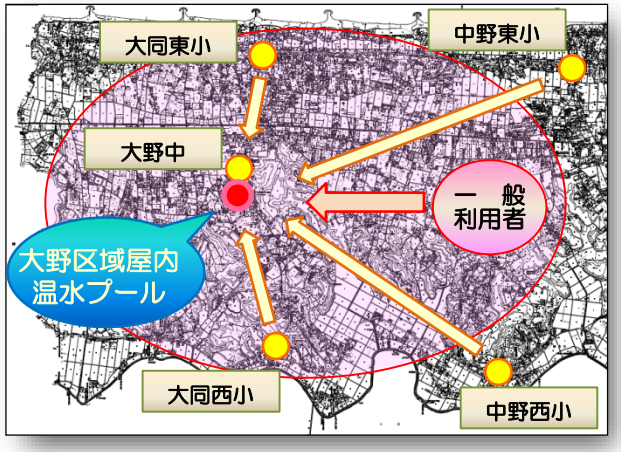
事業の概要

築40年が経過し老朽化が著しく、修繕費や維持管理が負担となっている5つの小・中学校の屋外プールの機能を集約した上で、一般の方も通年利用可能な利便性の高い屋内温水プールとして整備する。

事業のポイント



集約化



小・中学校の学校プールと市民プールとしての機能を併せ持つ、効率性・利便性の高い施設へ



住民との連携

施設の集約化にあたり、市、学校関係者、地域住民等による検討組織を立ち上げたほか、地区公民館、プール統合対象学校の児童・生徒・担任等にアンケート調査を実施し、住民や利用者との連携や協働を図った。

集約化

5つの学校プールを1つの屋内温水プールとして整備することで、清掃やメンテナンスなどの維持管理も容易になり、負担軽減。 ※プール延床面積 4,228.8㎡ → 771.56㎡ に集約。

事業の効果

- ○ 学校のみの利用であったプールを通年利用の屋内温水プールとすることで利便性が向上する。
- ○ 施設の老朽化により不安のあった維持管理がなくなり、学校及び市の負担が軽減される。
- ○ 幼児から高齢者がプールを通して交流できる施設となり、地域のにぎわいを創出する。